

百人一首を書きましよう。

めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に
雲隠れにし夜半の月影

紫式部

有馬山猪名の篠原風吹けば
いでそよ人を忘れやはする

大弐三位

やすらはで寝なましものをさ夜更けて
かたぶくまでの月を見しかな

赤染衛門

大江山いく野の道の遠ければ
まだふみも見ず天の橋立

小式部内侍

【現代語訳】
久しぶりにめぐり逢い、見定め
のつかないうちに雲間に隠
れてしまった夜半の月のよう
に、貴方はあわただしく姿を
隠してしまい残念です。

【現代語訳】
有馬山に近い猪名の篠原に風
が吹きおろすとそよそよと音
を立ててゆらぎます。さあ、
そのことですよ、私はあなた
のことをどうして忘れましょ
うか。決して忘れません。

【現代語訳】
ためらわずに寝てしまえば
よかったのに貴方をお待ち
して、夜明けが来て沈むま
で月を見ておりました。

【現代語訳】
大江山や生野を超えて丹後へ
ゆく道のりは遠いので、まだ
天橋立の地を踏んだことは
ございませんし、丹後の母
からの文もまだ届いており
ません。